

市民病院より

問合先 市民病院 (☎76・4131)



▲形成外科医師 佐藤 秀吉

加齢変化に対する形成外科治療

形成外科では、「体表面の怪我や病気による変形やキズを、より正常に近づける治療」を行っています。歴史的には「唇裂などのさまざま先天奇形にはじまり、手・指・足など外傷後の再建、乳癌・頭頸部癌などの腫瘍切除後の再建など、その治療範囲は多岐にわたってきました。

表題にあげた「加齢変化」とは通常、生物の生理的な変化ですが、時にその変化がQOL (Quality of Life: 日常生活の質) を著しく低下させている場合があります。近年、形成外科では、高齢化社会の訪れとともにQOLを向上させる治療も行うようになり、そうした疾患および

手術治療について紹介させていただきます。

① 眼瞼狭小

いわゆる「目が小さくなった」状態です。

目やになどで目をこすりすぎていると、外側の上まぶたと下まぶたの皮膚が癒着して、外側から徐々に目が小さくなっていくことがあります。多くは眼瞼下垂症を伴っており、どちらか手術を行うことで視野が著明に改善し、ものが見やすくなります。

② 眼瞼下垂症

「まぶたが開きにくくて、ものが見にくい」状態です。

加齢に伴い、上まぶたの皮膚が垂れ下がったり、まぶたを上げる筋肉や腱が劣化したりすることで生じます。また、コンタクトレンズの長期装用者は比較的年齢が若くても、この眼瞼下垂症の症状を呈することがあります。

手術は、余剰皮膚の切除とまぶたを上げる筋肉の強化を行います。視野が著明に広がり、ものが見やすくなります。

また、眼瞼下垂のためにまゆ毛を上にあげて目を開けている方がおられますが、日常的にそのように力を

入れていることが、頭痛や肩こりを引き起こしている場合があります。手術によりこれらの症状が改善する方もおられます。

③ 眼瞼内反症

「逆まつ毛」の状態です。

加齢に伴った下まぶたのたるみにより、通常外側に向いているまつ毛が、内側に向いてしまい、眼球結膜を傷つけて、眼痛、涙目、充血、目やに、羞明など症状が現れる疾患です。手術により下まぶたの余った皮膚を切除します。

④ 足指の血流不全による潰瘍・下腿静脈瘤に伴う皮膚潰瘍

加齢に伴い、体の血液循環が悪くなってくると、末梢まで血流がいきわたらず足指に皮膚潰瘍を生じたり、下腿の静脈瘤が破綻して潰瘍化したりすることがあります。一度発症してしまうと足指や下腿の切断を要したり、治療に何年もかかったり大変な病態です。

糖尿病や高脂血症、長期の喫煙、運動不足など生活習慣のなれの果てに生じます。普段から食事や運動に留意し、予防に努めることが最も肝要です。

上記の疾患にあてはまる症状がありましたら、一度ご相談ください。

◆お知らせ



助産師・看護師募集

■嘱託職員

勤務 月々金曜日午前8時30分～午後5時

対象 助産師、看護師免許取得者
月給27万円(一時金なし)

■臨時職員

勤務 月々金曜日午前8時30分～午後4時30分(時間は応相談)

対象 助産師、看護師免許取得者
時給 1,500円(一時金なし)

人員 各3人程度

勤務開始日 5月1日(木)

申込み 3月28日(金)(必着)までに、臨時・嘱託いずれかを記入した履歴書(写真貼付)、資格免許証の写しを郵送または直接病院

総務課(〒485-8520住所 不要)

※後日面接あり